

市川三郷町第3次総合計画審議会第2回会議
議事要旨

日時：令和5年12月8日（金）午後3時00分～午後4時30分

場所：市川三郷町本庁舎1階大会議室

出席者：小川委員、高尾委員、加藤委員、渡井委員、丹沢委員、片山委員、笠井委員、塩沢委員、渡邊委員、村松委員、市瀬委員、村松委員、浜野委員、依田委員
（計：14名）

欠席者：青沼委員、小林委員、土橋委員

次第

1 はじめのことば

政策推進課 主幹 笠井よりあいさつ

2 町長諮問

町長より審議会へ諮問

3 政策推進課長あいさつ

政策推進課長より挨拶

行財政改革（素案）の概要及び現在の状況について説明

4 議題

（1）市川三郷町住民アンケート結果

資料1 住民・中高生アンケート調査結果報告書について、（株）ぎょうせいより説明

○アンケートは、財政非常事態宣言が出される前に終わっているため、宣言後では内容や回答が変わってくるのではないかと懸念されている。またアンケートのサンプルのデータが60代・70代で全体の53パーセントを占めているため、人口減少対策等の重要課題の解決に必要な若い世代の回答が少ないと懸念されている。このアンケート結果を元に総合計画を策定されるのか。

⇒今回、2600票を無作為で配布させていただいている結果なので、一定の傾向はみられると考えている。ただ、アンケートの結果のみを踏まえて計画を策定するわけではないので、基礎調査の中の一つ、計画策定の素材として考えている。

⇒宣言前と後で結果が変わってくるのではないかと懸念されている。については、アンケートの質問項目

自体が、宣言によって結果が変わるものではないと考えている。(課長)

○アンケートの回収率 30%で、関心をもっている人が少ない。アンケートしても変わらないと考えている人が多い。この少ない回収率でまちの方向性を決める計画が策定できるのか。

⇒統計学的には、町の人口に対して 400 票回収できれば、有意性のある結果が得られるとなっているので、30%ではあるが、十分傾向として捉えられる回収数を得られたと考えている。

○アンケートをやって、(株)ぎょうせいとしての視点、他の自治体と比較してどうなのかを教示いただきたい。

⇒それぞれの自治体の規模や環境が違う中で、単純に比較することは難しいが、「住みやすさ」については、少し低いかもしれない。通常 6 割を少し超えるぐらいが水準となる。また、改善度と満足度について、設定した 4 つのエリアに各項目が振り分けられるのが通常であるが、市川三郷町の場合、改善されれば満足できる結果となっている。これは、町の施策の方向性が合っていると分析できる。

○今回のアンケートの目的は、町民の意見を多面的、多角的に拾い上げ、それを真摯に受け止めて、施策に反映するというのが本来の目的ですので、意見を踏まえて、施策の展開を事務局の方でしっかりまとめていただければと思う。

(2) 団体ヒアリング結果

資料 2 団体ヒアリングの結果について、(株)ぎょうせいより説明

○他の自治体と比較して町の特徴が出ている結果はあったかをご教示いただきたい。

⇒一概には言えないが、買い物に関する意見が多い。また意見を無駄にしてほしくないのご意見も踏まえて、今回意見を施策に活かせるステップが踏める仕組みの構築の部分を課題として挙げている。

(3) 将来人口の見通し

資料 3 推計人口について、(株)ぎょうせいより説明

○日本全体と比較して人口の減少率はどうか。

⇒全国的な傾向と大きな差はない。

⇒補足として 2045 年に富士川町は 9,000 人、身延町は 5,000 人弱となっている。

○県内全市町村で推計することは可能か。

⇒社人研の 2020 年国勢調査の結果を踏まえた地域別推計結果が今年中に出る見込みなので、その結果は示すことが出来るが、この計画の業務の中で、他の自治体の独自推計をすることは難しい。

○全国的な結果と比較して言えることがあればご教示いただきたい。

⇒ほかの自治体の傾向をみると、大体社人研の推計値を下回ることが多いが、市川三郷町は上回っている。政策の結果の表れだと思う。ただし、人口減少対策である総合戦略の計画に関する成果が目に見えて出てくるのは、10年15年の期間で動向を見ていく必要がある。

(4) 第1回住民ワークショップ開催の報告

(株)ぎょうせいより口頭で説明

○参加者の年齢構成についてご教示いただきたい。

⇒申し込みの中には高校生が3名、他にもそれぞれの年代の方に参加いただいている。

○総合計画の認知度が低いと考えている。特に若い人への周知が大事だと考えている。若い人の意見を重要視するべきだと考える。

⇒周知という点では、今回新たな取り組みとして、まちづくりレターという、隙間時間にご覧いただけるもので、総合計画の策定状況をお知らせしているので、ホームページにアクセスしていただき、ご覧いただければと思う。

(5) その他

・全体を通してのご意見等

○審議会の日程について、第3回で骨子案が出てくる予定となっている。これまでの将来像は、町のよいところ、自然、文化等を重視し、さらに町の教育、子育て、福祉を大事にしたキャッチフレーズとなっている。いただいた意見を大事にしながら、計画を策定する必要がある。行財政計画が来年1月に策定されるので、総計とも整合性を図っていく必要がある。

⇒いただいた意見を踏まえて整合性を図りながら策定を進めたい。

○要望として、財政状況についても見える化してほしい。町も積極的見える化することで議論が活発化し進展していくと思う。

⇒検討していきます。

○バックカスティング型の計画づくりとはどういうものか。

⇒現在の取り組みの課題を解決していくのが、フォアカスティングであり、将来像(目標)を先に決めて、それに向けて今から何をしていくべきかを検討するのが、バックカスティングの視点の計画づくりとなる。総合計画は全ての分野に係る計画なので、将来像は漠然とならざるをえない。将来像は住民(子どもを含めて)誰もが理解できる言葉で作ることが一般的である。今回の市川三郷町の将来像はもっと個性のある将来像を作るべきとの意見があれば、ご意見を踏まえた作成は可能である。

○合併後の商店、世帯数、空き家数、増えた企業等増えた部分と減った部分についてご教示いただきたい。

⇒次回までに示したい。

○2030年以降、支えられる人口65歳以上人口の方が多くなっている。福祉の充実には、支える側が増える必要がある。高齢者にとっては、介護を受けずに暮らせる歳の取り方、健康づくりが必要。支える側の人々が住み続けたいと思える町にすることに重点において、今後町が発展する計画づくりが必要。

⇒高齢者の計画では、介護予防の取組など高齢者になっても健康に暮らしていける計画を立てている。今回の計画でも整合を図りながら策定を進める。

○：緊急事態宣言が出た際、一般住民には経済収支比率などわからない言葉が多かった。

⇒1月に住民説明会を開くので、分かりやすい表現・説明をしながら話をしていく。

○総合計画も専門用語のような認識にならないよう、認知度を高めることについても考えてほしい。

⇒今回、住民に分かりやすい計画となることを一つの方針としている。

○行財政改革の素案について、先週までのパブコメの結果はどのように反映されるのか。

⇒現在取りまとめの段階であり、素案に盛り込む内容など精査中ですので、まとも次第お示しできると思う。

・今後の審議会の検討議題について

(株)ぎょうせいより今後の審議会の検討議題について説明

○第2次総合計画の検証結果は、第3回審議会で報告があるとの理解でよいか。

⇒その通り。

○今回の会議と同様、事前に資料配布がある理解でよいか。

⇒その通り。

・次回開催予定について

第3回は3月にかけて開催予定。

6 おわりのことば

政策推進課 主幹 笠井よりおわりのことば

以上